

整備計画による治水効果の試算について

※本資料の数値等は、速報値を基に計算を行ったものであるため、今後の調査等により変更となる可能性があります。

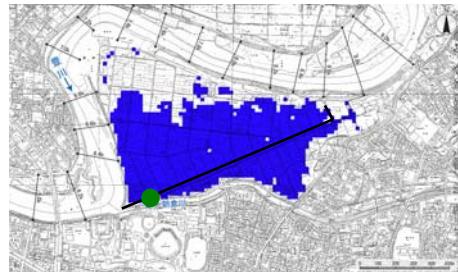
■ 仮に整備計画(河道改修+設楽ダム)が完了していた場合、

平成23年9月洪水(台風15号)時の霞地区内の想定被害軽減

床下浸水被害解消(被害の実態及び想定浸水位低下量から類推)

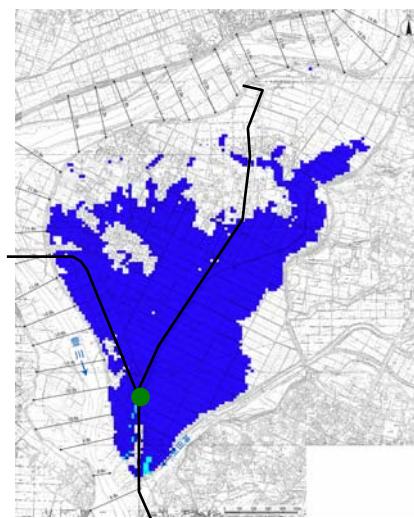
牛川霞

(河口より6.4k左岸)



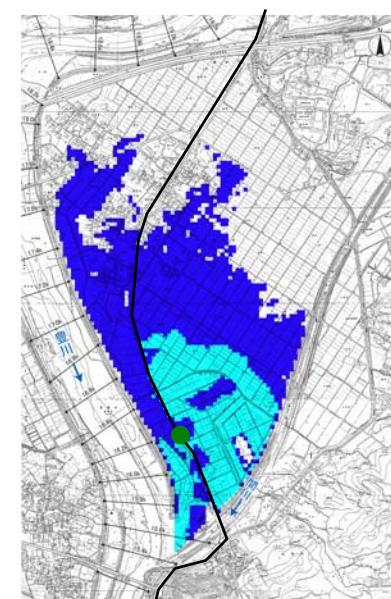
下条霞

(河口より9.6k左岸)



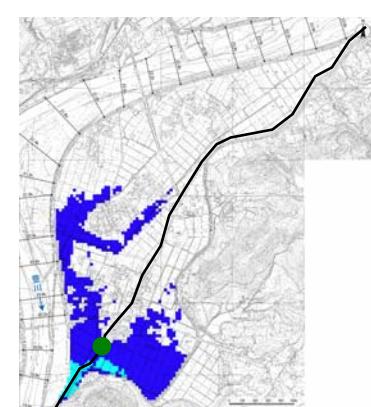
賀茂霞

(河口より15.6k左岸)



金沢霞

(河口より19.8k左岸)



■ 計算条件

- 現況での想定浸水面積 (青)
- 整備計画完了時の想定浸水面積 (水色)
- 主要幹線道路 (黒線)
- 整備計画完了時の場合、冠水が解消されると想定される区間 (青)
- 冠水深評価地点 (緑)

○想定浸水面積の減少

約60haの減少

(浸水面積約60ha→想定浸水面積0ha)

約200haの減少

(浸水面積約200ha→想定浸水面積1ha)

約130haの減少

(浸水面積約170ha→想定浸水面積40ha)

約30haの減少

(浸水面積約30ha→想定浸水面積4ha)

○主要幹線の想定冠水区間と想定冠水深の減少

市道 : 約120cmの冠水深低下

全線で冠水無

(想定冠水深 約1.2m→約0m)

豊橋鳳来線: 約120cmの冠水深低下

中条豊橋線: 交差点が評価地点なので同上
全線で冠水無

(想定冠水深 約1.2m→約0m)

市道 : 約230cmの冠水深低下

全線で冠水無

(想定冠水深 約2.3m→約0m)

市道 : 約90cmの冠水深低下

全線で冠水無

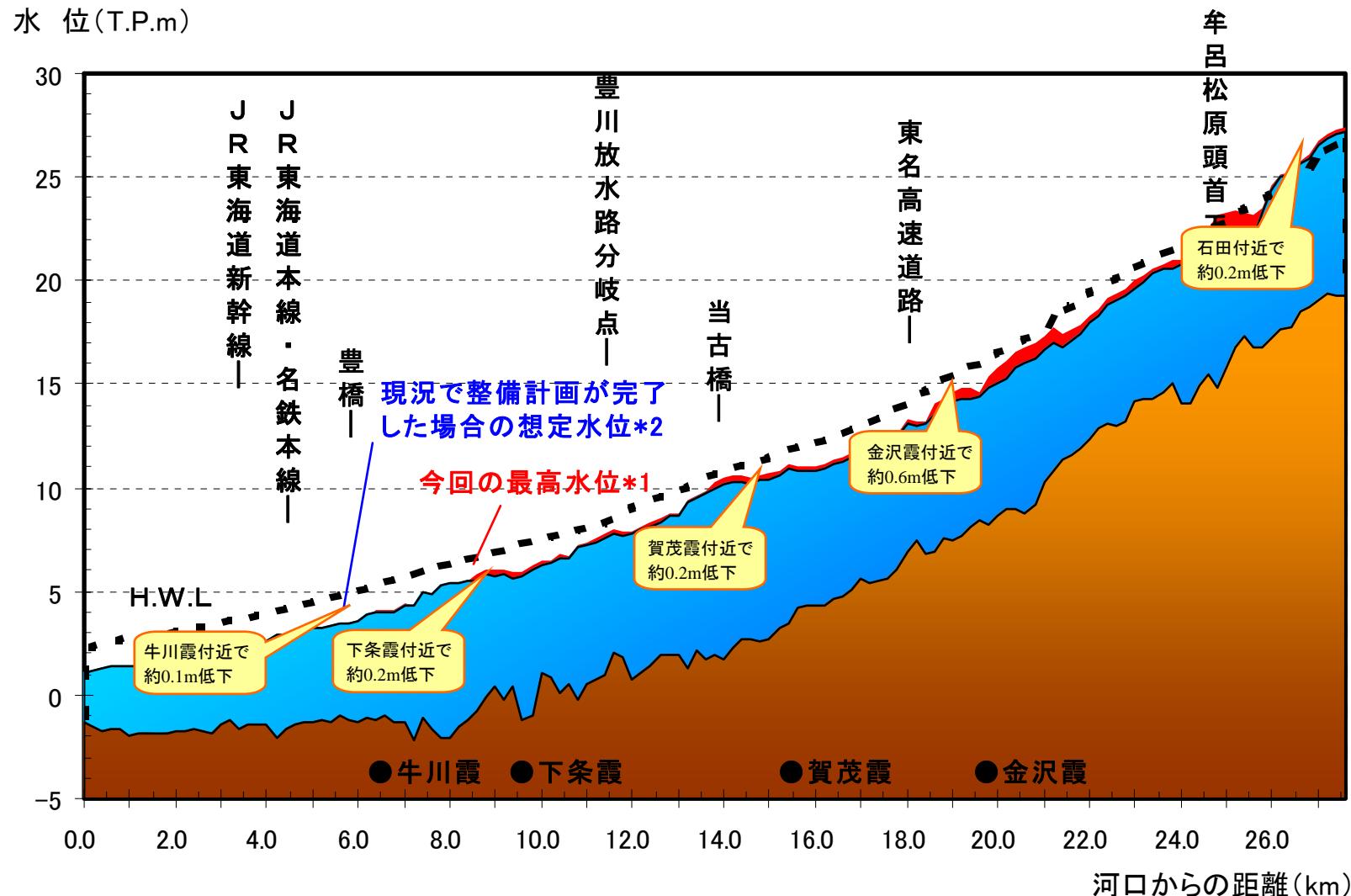
(想定冠水深 約0.9m→約0m)

※ 豊川水系河川整備計画では、設楽ダムの建設に加え、河道改修等の治水対策を行うこととしています。

霞堤対策については、牛川霞堤で無堤部を解消、他の下条・賀茂・金沢霞で小堤を設置し、浸水被害の軽減を図ることとしています。

※本資料の数値等は、速報値を基に計算を行ったものであるため、今後の調査等により変更となる可能性があります。

■平成23年9月洪水(台風15号)の水位縦断図(整備計画(河道改修+設楽ダム))



(* 1) 今回の最高水位: 洪水終了後に現地で調査した台風15号の洪水痕跡をもとに再現した計算水位
(* 2) 整備計画後(河道改修+設楽ダム)の想定水位: 霞堤対策を実施した場合を想定した計算水位
(* 3) 平成22年度末河道にて計算